

病院薬剤師の業務は年々拡充し、その内容も高度化してきた。病院地下の調剤室に閉じこもって、外来や入院患者の調剤をひたすらこなすというイメージは、すっかり過去のものになり、現在は、病棟に常駐して様々な業務を担うなど、チーム医療の一員として働くことが当たり前の姿になっている。医師不足を背景に、その存在感はますます強まりそうだ。

病院薬剤師編

チーム医療での役割拡大

1990年代に本格化した医薬分野の進展に伴って、外来患者の調剤は院外の薬局が担当するようになった。浮いたマンパワーを他の業務に振り向けられるようになり、診療報酬の後押しもあって、病院薬剤師が病棟に出て業務を行う機会が増えた。

当初は、入院患者への服薬指導が中心だったが、業務内容は次第に充実していった。病棟に出入りするうち医師や看護師との距離が縮まると、薬に関する様々な質問を次々に投

げかけられる。それに応じることで、頼られる存在になっていく。そんな姿が各地の病院で根つきつつある。

感染対策、栄養サポート、緩和ケアなど各種チームの一員として、病院全体の対策を考案したり、各診療科の壁を越えて介入することも少なくない。医療安全を担う職種としての役割も強まってきた。

日本病院薬剤師会や日本医療薬学会によって「認定薬剤師」「専門薬剤師」の認定制度が、がん、感染制御、精神科、妊婦・授乳婦、HIV感染症の各領域で構築されている。ま

た、医系の各学会が、薬剤師も対象にした各種認定制度を作ったり、立ち上げたりする動きも活発化している。

ゼネラリストという従来の存在に上乗せする形で、各分野でスペシャリストとしての役割を薬剤師に求める傾向が、今後さらに強まるだろう。

社会問題化した医師不足は、病院薬剤師にとって業務を拡大させるチャンスだ。その1つとして、ベッドサイドなど患者に近い場所での業務や役割が注目されている。患者の体に触れて聴診や打診、触診を行ったり、血圧や体温を測定したりすることで、薬の有効性や安全性を評価し、処方設計に役立てる。既にこうした業務を実行に移している病院もある。

業務を今以上に拡充させるには、看護師に比べて圧倒的に少ない病院薬剤師の数を増やすことが、避けては通れない大きな課題にもなっている。

昨秋まで福岡徳洲会病院(春日市)で働き、集中治療室(ICU)のチーム医療に深く関わっていた安藝敬生氏。望んでICUの現場に飛び込み、薬剤師の業務を一から築き上げてきた。現在、助教として籍を置く福岡大学薬学疾患管理学教室で、これまでの取り組みを論文にまとめている。今春からはまた、特性が異なる病院で働き、ICUにおける業務をさらに深めたいという。「夢や目標を持ってほしい」と薬学生にエールを送る。

ICUで存在感を発揮

福岡大学薬学疾患管理学 安藝 敬生

安藝氏は大学院生の時、実習先の病院でICUの現場を目の当たりにした。多くの患者は臓器障害や呼吸機能・血液凝固系の異常を来し、刻一刻と病態が変化する中で、多種多様な薬剤が投与されていた。薬剤師は常駐せず、薬剤の適正使用は医師、看護師に委ねられていた。

ICU担当医師から、「この現場を見て君たちは何とも思わないのか」と論され、発奮した安藝氏は大学院修了後、病院に就職して

すぐに、自ら希望してICUでの業務構築に取り組み始めた。

薬品管理を手始めに、医師や看護師への関わりを深めながら、薬剤師が担うべき業務を模索した。▽注射薬の配合変化の回避▽静脈炎を考慮した投与ルートの設定▽腎機能を踏まえた投与量の調節▽適正使用、適応外処方などの迅速かつ正確な情報提供——などの業務を次々に確立していった。

ICUでの薬剤師の業務は2008年春以降、



先輩からのメッセージ

診療報酬の算定対象になった。ICUのチーム医療に参画する薬剤師が全国に増えつつある中、「多施設間での情報の交換や共有を推進する必要がある」と安藝氏は言う。現在、安藝氏も含め先駆的な病院の薬剤師が集まって、ICUにおける標準的な業務指針の構築に取り組んでいる。

このほか、データ不足から現場での対応に苦慮した経験をもとに安藝氏は、ICUで生じる薬剤関連問題の解決を、所属する研究室と連携して進めている。

病院薬剤師の仕事の魅力は「同じ目的を持つ様々なスタッフと働き、議論しながらdrug-related-problemを解決し、薬物療法の質の向上に貢献できること」と安藝氏。薬学生には「まず夢や目標を持ってもらいたい。専門職としての責任感や挑戦する勇気といった“気持ち”の面で、尊敬できる人や目標とする人を見つけてほしい」とアドバイスを送る。

やさしい臨床医学テキスト

2007年刊行した医療に強い薬剤師養成のためのテキスト「薬剤師・薬学生のための臨床医学テキスト」を改題。薬学関係者の他にも、研修医、内科を専門としない医師、看護師、管理栄養士や臨床検査技師など医療に携わるすべての人が活用できるよう内容を見直して改訂した。主要な内科疾患に加え、日常診療で遭遇する精神疾患、産科・婦人科疾患、感覚器疾患(眼疾患、耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患)も取り上げ、概念、症状、身体所見、診断と検査、治療法について、各領域の専門医が図表や写真を用いて簡潔にやさしく解説。その網羅性とコンパクトさが好評を得ており、今回の改訂では、治療薬の薬理作用や作用機序、副作用などを加筆し、さらに内容を充実させた。

編集委員 大野 勲、柴崎 敏昭、平井 みどり、星 恵子、三木 知博、山下 直美

●B5判 502頁
定価 4,620円(税込)
《タックシールインデックス付き》

薬事日報社 書籍注文専用 FAX 03-3866-8408



私たちは、育薬、という発想です。

企業理念

- C**reativity 独創性を育てます
- L**iability 責任を持って業務を遂行します
- I**nnovation 革新の精神を高く持ちます
- O**pportunity 人と薬の出会いを大切にします

豊富な人材
充実した導入研修
特化した専門研修



がん専門CRO クリオサイエンス株式会社

www.clio-science.com

東京都新宿区四谷4-28-4 YKBエンサインビル12階 TEL 03-5363-9100 FAX 03-5363-9101